

名 称	令和5年度 第1回ほどがや市民活動センター評議会 議事録		
日 時	令和5年7月3日(月) 14:00~16:00		
場 所	ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース		
出席者	評議会委員	有元 典文 委員 横浜国立大学教育学部教授 小倉 敬子 委員 (公財)かわさき市民活動センター理事長 近藤 博昭 委員 横浜商工会議所西部支部 支部委員 竹迫 和代 委員 参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター 藤枝 香織 委員 (一社)ソーシャルコーディネートかながわ理事・事務局長 堀 功生 委員 保土ヶ谷区連合町内会長連絡会会長	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 地域振興課長 金子 強 " 生涯学習支援係長 李 悠 " 生涯学習支援係 鈴木 佑弥 " 生涯学習支援係 和田 喜代美	
	協働運営会議	代表 清水 蓬山	
	管理運営業務受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	理事長	福島 伸枝
	理事	佐藤 洋志	
	ほどがや市民活動センター	センター長	北川 有紀
	"	職員	吉弘 初枝
	"	職員	小林 康夫
	"	職員	近岡 友仁
	"	職員	姉川 圭一

議題	1 令和5年度 ほどがや市民活動センター事業について 2 その他 意見交換
資料	1 令和5年度 ほどがや市民活動センター 第1回評議会委員・関係者名簿 2 令和5年度 ほどがや市民活動センター 事業計画・事業目標一覧 3 ほどがや市民活動センター評議会会則 4 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図

\*金子地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第8条に基づき、委員6名出席のため、本評議会の成立が確認された。

\*令和5年度第1回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

## 議題1：令和5年度 ほどがや市民活動センター事業について

センター事業についてセンター長の北川から説明を行った。

### 【委員からの質問と回答および意見】

#### ■ 事業一覧（イベント） / 全体について

<質問> 資料中の「手を放す年度」の「手を放す」とはどのような意味か？

<区回答> 事業はやり続けられれば増えていくだけで、どこかでやめることを決める必要がある。それをアワーズと一緒に考えていくため新設した項目。

<意見>

- 「手放す」よりも「支援する期限」「実施期限」「何年度まで実施」などの表記にした方がよい。
- 3年で事業を一旦終了し見直すなど、支援期限を決めるとよい。
- 共催事業についても同様に期限を決め、自立に向けた計画とした方がよい。

<意見>

- 自主事業（主催か共催か）と委託事業を整理してほしい。それによってアドバイスや評価も変わる。

#### ■ 事業一覧（イベント） / 人材育成事業について

<質問> 「誰でも対等に活動できる環境を実現する」の「対等」とはどんな意味か？

<回答> 少数派の人の声が埋もれてしまわないように、というイメージで対等という言葉を使っている。

<質問> 今年度のテーマの中にある「新旧の交わる地域」の新旧のイメージは何か。

<回答> 「新」には相鉄線高架下に入居してきた企業や団体、また新たに保土ヶ谷に転入してきて地域に関心を持つ人、「旧」はこれまで地域で活動してきた人たちをイメージしている。

<意見>

- 「事業を進めるうえで大切にしたいこと」の表現がしっかりできていて素晴らしい。次の段階では、それができているか振り返り評価できるようになることを期待している。
- 新規転入者へ区役所が配付する各種書類の中に、アワーズの案内を入れることを検討してほしい。
- 新規事業「かもキャン」が新しい層の発掘となりそうで注目している。その評価軸は今後十分検討してほしい。
- 定例おそうじは、ゴミについて学ぶ以外に活動を始めたい人への活動機会の提供だと聞いた。やって終わりではなく調査の視点があるとよい。次のステップとして、自分たちが拾う行動から見えてきた課題を発信するなど、参加者が主体となって取り組める事業の発展形を期待したい。

## ■ 事業一覧（イベント） / 活動支援事業について

<質問> 団体支援事業「OURS GREEN DAY」で、採用団体のエントリー方法と選定はどう考えているか。

<回答> 現在の対象団体は個別の相談事案から始まったもの。支援期間を決めて団体公募するのではなく、個別の相談を通して対象団体を決めていく事を考えている。

<意見>

- 「OURS GREEN DAY」事業の考え方は専門性の高い団体支援というよりも、地域と団体をつなぐという目線を大切に、関わる団体がもっと増える方向性にしたらよいと思う。
- 期限を決めて対象団体に意識づけさせたほうがよい。アワーズの団体に対するサポートの割合を初年度 100%、2 年目 50%、3 年目 30%等のように考えてプログラムを作るとよい。寄り添うだけが支援ではない。
- 対象団体選定は、伴走支援を希望する他団体のことも考えることが望ましい。

<質問> 区は街の学習応援隊事業の委託内容についてどう考えているのか。

<区回答> 委託内容は詳細な事業内容までは決めていない。

<意見>

- 街の学習応援隊は事業を大きく見直す時に来ていると思う。事業内容を検討すべき。
- アワーズはこの事業を今後どのようにやっていくのが良いかを検討し、区に提案して話し合うと良い。
- この事業は市内各区で同様な事業を行っている。現場だけで考えるのではなく区が他区の状況や課題を調べ、アワーズにフィードバックしてほしい。

<意見>

- 活動支援事業の目標設定が「活動を作る仲間の関係を共につくる」となっている。結果として関係性ができたというのなら理解できるが、目標として狙っているところをどう評価するのか疑問が生じた。評価軸を検討するとよい。
- 活動団体と地域つないでいくことはアワーズの大事な役割だと思う。
- 組織のマネジメント力や発信力などを磨く「活動支援」があれば事業に幅が出るのではないか。

## ■ 事業一覧（イベント） / ネットワーク事業について

<意見>

協働運営会議は、各団体がアワーズとどういう関係を築いていくのか協議しながら、団体間の連携を深めるのが主旨。目的に合った活動内容を検討してほしい。

## ■ 事業一覧（通常業務）について

<質問> 「気軽な活動参加から市民活動への経過を考え事業展開してゆく」の課題感について聞きたい。

<区回答> 今まで何もやっていなかった人が気軽に参加する事業が多いので、「楽しい」で終わらずに、生涯学習から市民活動への展開を見据え、団体の自立を促すような事業展開を考えたい

<意見>

- 現在、区版の支援センターは地域に目を向けていて、市の協働推進センターは企業とNPOの協働支援にシフトしている。市民活動団体は誰が支援するのかを考えたときにアワーズ（各区の市民活動支援センター）には市民団体の成長を支える団体育成にも力を入れてほしい。
- 県の相談員をしている経験から、地域につなぎたい人がいたときに、アワーズは安心してつなぐことが出来る信頼できる区版のセンターだと感じている。
- 地域とのつながりや、団体としての自立支援など、行政としての方向性をしっかりとアワーズと共有してほしい。

## 議題2：その他意見交換

<委員からのその他の意見>

- 今後も社会福祉協議会と有意義に有機的に連携できることを期待している。
- 市民活動は活動したい人、出来る人に参加が限られがちになる。そこを誰でも安心安全に参加できるような環境が出来たらよいと感じる。そんな手伝いがしたい。
- 地域の問題に対して行政がやれることは限られている。そこに対して市民がやれることは何か考える、そんな地域づくりを目指していきたい。